

日曜日の午後、モンマルトルの丘に向かって散策していると、古いシャンソンを奏でるアコーディオンと大きな歌声が響いてきた。聞き覚えがある歌にひかれて歩いて行くと、丘のふもとにあるアベス広場にたどりついた。4人のミュージシャンによる演奏にあわせて、カップルが踊り、観客が歌っている。モンマルトルのブドウ収穫祭に初登場したイベント、「独身主義者のダンスパーティー」。目と目をみつめあって踊るカップルたちは、結婚もパックスも好まない独身主義者たち。

ダンスパーティーに先立ち、「独身主義者のセレモニー」が開かれた。モンマルトルがあるパリ18区の区長出席のもとで、結婚しないカップルとして公式に認められる。普通、フランスでは、市町村長の前で結婚式がとりおこなわれるが、この日は独身主義者が主役。独身のオトコとオンナが永遠の愛を誓いあう一風変わった儀式に、フランス国内外のカップル35組が参加した。「40歳の思い出にしたい来て来たの」と嬉しそうな女性と手を握る男性の姿が微笑ましい。彼らは20年来の事実婚カップルで、儀式をあげたことはなかった。

このイベントは、アベス広場にある書店の女主人による発案による。モンマルトルにゆかりのある歌手ジョルジュ・ブラッサンスは、結婚という形式を嫌っていたことで知られる。女主人は、ブラッサンスが歌った「独身主義者のバラード (La non demande en mariage)」にヒントを得た。ちょうど、去年の収穫祭のテーマが「ブラッサンスに捧げる」だったので、このセレモニーを提案したところ大盛況だった。今年も、新しく加わったダンスパーティーともに大成功。「これからも収穫祭の最終日を飾るイベントとして続くだろう」とパリ18区の広報担当者。メインイベントのひとつになるかもしれない。

モンマルトルのブドウ畑は、アベス広場とは反対側の丘の斜面にある。これは、パリで最も古いブドウ畑で、紀元前120年からはじまるガロロマン時代に栽培がはじまった。一時姿を消したブドウ畑が、芸術家たちの手によって復活。現在1556㎡の土地にブドウの木がおよそ1700本植えられている。普段は鍵がかかっているブドウ畑に、今年初めて、一般客が足を踏み入れることができた。有料で、人数制限もある収穫祭最終日だけの特別企画だ。こうした新しい試みに加え、今年は、開催期間も一週間に拡大した。畑は小さいが、収穫祭はどんどん大きくなっていく。

「独身主義者のダンスパーティー」には結婚指輪をしたカップルや恋人たちも飛び入り参加して、輪がふくらんでいく。どのカップルも形に関係なく幸せそうだ。